

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者やそのご家族、地域の方々が「第二の我が家」「ご近所さん」と思えるような家作りを目指し、職員全員で理念を作っている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の採用時には必ず理念を伝え、理解してもらうようにしている。また、日々のケアサービスの場面で実践されているかを毎月のケアカンファレンスにて話し合っている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族には面会時や行事、ホームたより等を通し自分たちの取り組みや思いを伝えている。また、地域行事や地域の会合への参加、さらには日々の触れ合いのなかで、施設ではなく大家族の家なんだということ、いつでも気軽にお茶飲み立ち寄れる家であることをつたえている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	小組合(自治会)費を納入する際や日常の散歩の時などに挨拶を交わしたり話をしたりしている。また、週1回の診察日には多くの地域の方が集まるので必ず声をかけ、コミュニケーションをとっている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小組合(自治会)に加入しており、地域行事や幼稚園、小学校などの学校行事に積極的に参加している。 〔夏祭り、敬老会、十五夜、運動会、学習発表会、お遊戯会、太鼓踊り〕	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	開設から5年。この間に得た認知症についての知識と体験談などを地域の様々な研修等で話してきたなあ・・・という思いは年々強くなってきているが、まだまだ力不足である。	○	グループホームや認知症の人の介護についてたくさんの方に理解していただくために、その伝える技術を身につけ、今年中に1回は実施したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	1ヶ月の期間をかけ、全員で毎日少しずつ自己評価を行うことでじっくりと振り返りができ、新たな気づきや改善点を発見し、サービスの質の向上に努めている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、自己評価と外部評価の結果を配布し説明している。また、事業所からの報告をし、参加メンバーからの質問や意見等を受け、双方向的な会議となっている。しかし、定期的に開催できていない。	○	2ヶ月に1回の定期開催を守り、事業所の悩みを一つ一つ解決していきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外での行き来は、ほとんどない。	○	市町村へも、しいはら通信を送付しようと決めていたので、あとは、実行するのみ。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見が必要な方がいた場合、管理者が対応するため、他の職員の理解度は低い。また、これまで事例はない。	○	対応が必要と思われる利用者が現れた場合、随時、職員に説明し、アドバイスをしながら利用者の支援に結び付けたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティングの中で、身体拘束廃止と関連して学び、そのどちらも、このホーム内で起こらないよう取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は重要事項説明を丁寧に行い、利用者やご家族の疑問にも十分に説明をし同意を得ている。利用者の状態変化により契約解除(退居)に至る場合は、本人やご家族と十分に話し合っ決めてる。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言葉や態度からその思いを察する努力をし、また、利用者が不安や悩み、意見などを話しやすいようにさりげなく声をかけ聞いている。その利用者の言葉はミーティングで職員全員に伝え、話し合われている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族の面会時には必ず声をかけ、暮らしぶりや健康状態などお話ししている。また、しいはら通信や個別の手紙でも暮らしぶりやエピソードなどをつたえている。金銭については、毎月、金銭出納帳をコピーし送付している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の訪問時や通信等を通して、常に問いかけ、どんな小さなことでも遠慮せずに言っただけのような雰囲気づくりを心がけている。また、ご家族の要望にすぐに応えられるようミーティングを開き対応している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者は、現場の状況を把握し、現場の意見や要望を聞き実現するよう努めている。定期的に現場にも顔を出し職員や利用者に声をかけている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の状態に合わせて柔軟に対応している。勤務シフト上も無理の無い勤務になっており、職員の急病や急な休みがあってもすぐに調整し利用者の生活に影響の無いように努めている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はない。離職者も最小限に留まるよう努力しており、利用者やご家族との顔なじみの関係ができています。新しい職員が入る場合も、利用者にとり紹介し良好な関係が築けるよう取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎朝のミーティングや毎月1回のカンファレンスで、それぞれの事例を通した学びや気づきを話し合い、全員で共有する努力をしている。また、事業所外で開催される研修には順番で参加し、職員全員が受光できるようにしている。それらの研修報告は、毎月のカンファレンスで発表してもらい、全職員が閲覧できるようにしている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入しており、スタッフ研修会には毎回参加している。また、同じ地域内のグループホームとも交流があり、互いにサービスの質の向上を目指している。	○	最近では、交流の機会も少なくなってきたので、年間を通した交流計画を立てて行きたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の疲労やストレスの要因について気を配り、話を聞いたり、勤務の工夫をしたりしている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は、現場の状況を把握し、現場の意見や要望を聞き実現するよう努めている。定期的に現場にも顔を出し職員や利用者に声をかけている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居申し込みがあった時は、必ず本人に会い、心身の状態や本人の思いを把握するようにしている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初めて相談に来られた時、これまでの経緯や今一番困っていることなどをゆっくりと聞くようにしている。その上で、受けられるサービスについて説明し、少しでもご家族の不安や疑問が軽減するように努めることで、初期の良好な関係を築いている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人やご家族の思い、状況等を確認し、改善に向けた支援の提案をしたり地域包括支援センターや他の事業所のサービスにつなげるなどの対応をしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には必ず本人にお会いし、本人やご家族と話をし、安心して入居していただけるよう取り組んでいる。また、入居申し込みされている方々にも、いつでもお茶飲みに来て頂けるよう伝えている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の大先輩であり、いろいろな場面で教えていただくことが多い。私たちが励ますだけでなく、利用者から励まされたり、諭されたりし、互いに支えあって生活していることを実感すると共にそれを大切にしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は、ケアの中で得た感動や本人の喜びや悲しみなどを家族に伝え、一緒に感動したり喜んだり励ましてほしいと願い接している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族と本人の絆を大切に、面会時はゆっくりとすごしていただけるよう、時には間をとりもちながら、よりよい関係の継続に努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎週1回の診察日、待合室で昔からの知人や友人等と会うことができ、お互いの近況を語り合うことで継続的な交流ができている。また、自宅までドライブに出かけたときは、近所の方々と交流できるよう支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士が助け合う場面を大事にしており、そんな時は職員は口や手を出さず、「ありがとう」と、労いの言葉をかけ見守っている。また、職員は常に利用者のそばに居て多くの会話をしながら、利用者同士の関係が円滑になるような働きかけをしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他の事業所に移られたり、病院に入院した方にも利用者と一緒に関わりに行くなどしている。また、街中でご家族にお会いしたら必ず声をかけたり、逆にご家族のほうから声をかけてきてくださる関係ができています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者同士の会話や家族との会話、また、怒っている時や泣いている時、元気が無い時などに目や耳を傾け、その方の思いを知る努力をしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人やご家族にお会いし、話をしながらこれまでの暮らしぶりを把握するよう努めている。また、入居後も少しずつ話を聞き、本人の全体像を知るようにしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの生活リズムを理解し、また、一つ一つの動作や言動を見逃さずできること、わかる力をもっともっと伸ばすよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々のかかわりの中で、本人やご家族の思いや要望を聞き、ケアプランを作成している。また、職員全員でカンファレンスを開き、モニタリング、課題となること等を話し合っている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の情報、本人や家族の要望を取り入れ介護計画を作成し、毎月1回のケアカンファレンスで出された意見等や、家族・本人の要望に応じて介護計画の見直しをおこなっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしの様子や身体状況、本人の言葉やエピソードなどを中心に、職員の気づきも含めて個別に記録している。また、その記録を基に介護計画の見直し、評価を実施している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	開設当初より、病院への通院送迎、早期退院の支援、医療処置を受けながらの生活の継続など、自主サービスを看護師がおこなっている。また、利用者の外泊支援、家族の宿泊支援も行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の方々に、私たちも地域の一員なんだということを理解していただき、皆が安心して生き生きとした生活を続けられるように、周辺施設等(小組合・小学校・幼稚園・改善センター)への働きかけやボランティアへの協力を呼びかけている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	これまで、独自にボランティアの支援などを利用してきているが、地域の中にどのようなサービスがあるのか把握していなかった。	○	地域に、高齢者が利用できるサービスがどれくらいあるのか、どのようにしたらそれを利用できるのか情報を集めたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	これまで、地域包括支援センターとの交流がほとんどなかった。	○	ホーム便り(しいはら通信)の送付から始めていきたい。また、運営推進会議への参加を呼びかけ、情報交換や協力関係を築いていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居に伴い、事業所の協力医をかかりつけ医とする場合、本人と家族の同意を得ている。また、一人ひとりの状態や希望に応じて他の医療機関も受診できおり、その受診結果に関する情報の共有もしっかりとできている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	主治医は脳神経内科を専門としており、いつも利用者や家族、職員の話をよく聞き、その利用者の姿を診て適切な指示や助言をしてもらっている。また、他の専門医への紹介も積極的に行っている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	利用者の普段の状態や疾病等をよく知っている看護資格を有する職員がおり、中心となって日頃の健康管理や状態変化に応じた支援をしている。また、看護師と提携医療機関との連携も密にとれている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には、本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、頻繁に職員が面会に行っている。また、主治医や家族とも情報交換しながら、早期に退院できるようアプローチしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した時、家族・医師・看護師を交えて話し合いを行っている。また、状態の変化があるごとに、家族への説明をし、家族の気持ちをお聞きし、支援につなげている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人の気持ちを大切にしながら、家族と話し合い利用者が安心して終末期を過ごしていけるよう取り組んでいる。急変時は、すぐに対応していただけるよう医療機関とも取り決めができており、これまでもそのようにしてきている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	新しい所に移られる場合、これまでの生活が継続され、本人が安心して暮らしていけるよう、今までの生活環境、支援の内容、注意点などの情報を提供し、連携に努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねることのないよう気をつけながら、親しみやすい言葉でさりげなく声をかけるよう、全職員で取り組んでいる。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員は利用者といつも一緒にいて、語らい、触れ合っており、各々の好みや関心事、希望などを見極め、利用者が自分で決めたり選んだりする場面作りを積極的に行っている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	昼食と夕食の時間以外は何も決まりは無く、一人ひとりの思いのまま暮らしている。朝寝坊や夜更かし、晩酌、夜間の家族の面会など本人のきぼうに沿って柔軟に支援している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	買い物や行事の時など、普段着からおしゃれ着に着替えたり化粧をするなどの支援をしている。月に一度来て下さる床屋さんには、希望を優しく聞いてくださり利用者の皆さんも喜んでおられる。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みや苦手なものを踏まえたメニューを工夫し、盛り付けや配膳など利用者と一緒にいき、職員と利用者が同じ料理を同じテーブルを囲んで楽しく食事できるよう雰囲気作りも大事にしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者が自宅にいるときと同様に、おやつやお酒など好みのものを楽しめるよう、時間や場所などを配慮しながら支援している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	尿意のない利用者も時間を見計らってトイレ誘導し、トイレでの排泄を支援している。オムツを使用している方は、皮膚トラブルに注意しながら使用を控えたりその時々にあった支援を行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望にあわせて、「朝風呂」にしたり夕方に入っている。また、毎日入りたい方は毎日、入浴拒否がある方には声掛けを工夫し気持ちよく入っている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。夜間眠れない時には添い寝したり、温かい飲み物を飲みながらおしゃべりをするなど、安心して心地良く眠れるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	草取り、洗濯物たたみ、ちりがみ折り、下膳など、皆それぞれが得意な事を率先してして下さるので、感謝の言葉を伝えていく。動物(猫)の世話を通し、いつの間にかそれが生きがいとなり、心の支えとなり、そして、大切なパートナーとなっている方もおられる。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得て小額のお金を持っている人もいる。家族よりお金を預かり、事務所が管理している人でも、外出時、お金を支払う場面では自分で払っていただけるようにお金を手渡すなどの工夫をしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気、本人の気分や希望に応じて、季節を肌で感じてもらう、心身の活性につながるように散歩やドライブに出かけている。また、お弁当を持って公園に出かけたりしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	一人ひとりの思いや願いを叶えられるように、家族等と相談し、職員の勤務を調整する等しながら実現に取り組んでいる。 『温泉に行きたい』『自分では動けず車椅子だが墓参りに行きたい』『知人の家を訪ねたい』		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話は子機を使うことで自室でゆっくりと話すごとができている。年賀状や暑中見舞いを出すようにしており、書けない方には、伝えたい言葉を話していただき代筆している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族や知人の方が、気軽に訪ねやすい雰囲気作りを心がけており、面会時間は設けていない。本人と家族だけでゆっくりと過ごせるようお茶などを用意したり、近況の報告、写真の提供をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会を毎月1回行っており、自分たちのケアを振り返り、自覚しない身体拘束が行われていないか話し合っている。また、全ての職員が『身体拘束は絶対に行わない』という認識の下でケアに取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は、日中玄関に鍵をかけることの閉塞感や圧迫感など、利用者や家族さらには、ホームを訪れる全ての人に与える印象等を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。利用者が外出しそうな時はさりげなく声をかけたり一緒についていくなどしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は入居者と同じ場所(ホール)で記録等の事務作業を行いながら、さりげなく全員の状況を把握するよう努めている。夜間も居室の物音が聞こえるホールで作業し、数時間ごとの見廻りと起きた時の対応を安全に行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者の状況にあわせて、注意が必要な物品を把握し、管理方法を職員間で話し合い危険防止に努めている。(白紅、化粧水、貼るカイロ、ポリデントなど自己管理できる方には持っていただいている。)		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	朝のミーティングやケアカンファレンスで、一人ひとりの状態から予測される危険を話し合い、事故が起こらないように取り組んでいる。転倒などの事故が発生した時は、速やかに事故報告書を作成し、事故の原因や今後の対策について全員で検討している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変や事故発生時、慌てずに対応できるようにとマニュアルは作成してあるものの、実技訓練を行っていない。スタッフの中に看護師がいるため頼り切っている現状である。	○	今後、消防署の協力を得て、救急手当てや蘇生術の訓練を実施し、すべての職員が不安なく対応できるようにする計画である。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導をもらいながら、利用者と職員と一緒に訓練を行っている。台風などの災害が発生しやすい時期には、水や食料・その他の物品の確認、職員の強化など、災害対策を行っている。	○	地元消防団や地域住民の方々と共に訓練を行うことの必要性を強く感じている。今後、運営推進会議や小組合(自治会)で相談し、具体的にしていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	利用者一人ひとりの希望を叶えたり、心身の機能の維持・向上のため、リスクは高くなるが様々な活動をしていく(している)ことを説明し、自由な暮らしの大切さを理解していただいている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックを基本に、尿の回数、量、色、排便の有無、性状、食欲や摂取量など観察し体調の変化に気をつけ、職員全員で情報を共有し、早期対応ができています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成しており、全ての職員が内容を把握し支援している。処方された薬をただ漫然と服用していただくのではなく、常に心身の状態を観察し、看護師や主治医と連携し適宜、薬の処方や用量の変更に対応している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	一人ひとりの排便状態を把握しており、食事やおやつでも野菜やさつま芋などを多く使い、自然排便できるよう取り組んでいる。また、整腸剤を服用される入居者には状態にあわせて投与している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	朝。夕の歯磨きは確実にやっているが、昼食後の歯磨きを忘れがちである。寝る前には入れ歯洗浄液につけている。	○	昼食後の歯磨きも忘れずに行う。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの好みを把握しており献立が偏らないよう気をつけている。また、食事や水分摂取量は毎回記録に残し、体重の増減とあわせ体調の変化にも気をつけている。食欲の無い時には、その方の好むものや今一番何を食べたいかを聞いてお出し、摂取量が落ちないように支援している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	事業所内で起こりえる感染症について、マニュアルを作成し、職員全員で学習して予防・対策に努めている。また、季節・地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板や布巾は夜勤帯で漂白し清潔を心がけている。食材は生鮮食品については最初で小分けにし冷凍して使用している。2～3日でほぼ使い切る量であり、使い切ってから新たに買い足している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ホームを訪れる人が玄関のチャイムを鳴らさなくても「○○さん」と、気軽に入ってきてやすい雰囲気作りを心がけ、スリッパや毛布などを庭先に干したり、冬場以外は玄関は網戸にし生活の音が外にも聞こえるようにしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの飾り物は季節ごとに変えている。また、入居者が好きな芸能人のカレンダーや野菜のレプリカなどを飾ることで生活感が出、入居者にもホームを訪れる人にも好評を得ている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られた空間の中で、所々に立ち止まれる場所を作りそこから入居者同士の会話や歌声が聞こえている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には必要最低限の物しかないが、自宅で使っていた小物や家族との写真が身近にあることでおちついて暮らしておられる。また、ご位牌を持ってきた方もおり、毎朝お水を変え、手を合わせておられる。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	職員はにおいや空気のだよみに敏感であるよう気をつけている。また、室内の温度や湿度にも注意しエアコンのかけっ放しはしていない。高齢者のこれまでの生活背景や皮膚感覚、体調、好みなどを考慮し支援している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口の段差に対しては床の色を変えることで注意を促し、トイレでは、手すりの位置とその種類を選択することで一人ひとりの身体機能を発揮し維持できている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自分の部屋が解らなくても目印があれば帰れる人、線をたどって帰れる人など、一人ひとりに合わせた環境を作っている。90歳代の方が多い当ホームでは「トイレ」を入居者の話す言葉で「便所」と大きく表示している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先にはベンチやテーブルがあり、天気の良い日は外でお茶を飲んだり昼食をとるようにしている。また、裏庭には畑や物干し場があり作物の様子を見たり、洗濯物干しを手伝ったりと、外での活動を楽しんでいる。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ご家族や友人、地域の方など、ホームを訪れる人が気軽に入ってこれるような環境作りを心がけており、スタッフはいつも笑顔で明るい対応をしている。気どらず親しみやすい田舎言葉を使い、皆が “ホッ” とできる “家” になればいいなあと思っている。9人のおばあちゃんたちと一緒に泣いたり、笑ったり、時にはケンカしたり、まるで本当の家族のような関係ができています。平均年齢90歳と、超高齢化のホームながら、皆さんが健康であることが何よりの自慢である。風邪が流行する時期でも風邪をひく方はいない。看護師による日頃の健康管理と主治医との連携、そして、スタッフの観察力と介護力をさらにパワーアップし、当ホームから“長寿世界一”を誕生させるべく、頑張りたい。(現在の最高齢者は99歳！)